

会 議 録

会議の名称	令和元年度第1回行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	令和元年12月10日（火） 開会：午前10時00分 閉会：午前11時45分
開催場所	行田市役所 305会議室
出席委員氏名	石川隆美座長、山崎孝子委員、山本直樹委員、島田ユミ子委員、細井保雄委員、山本栄治委員、細村美夫委員、小林亘委員、為貝正博委員、竹内和幸委員、畔上兼彰委員
欠席委員氏名	小池利昌委員、戸塚昌利委員、荒岡浩徳委員、岡田則之委員、宮本伸子委員、伊東政信委員
事務局	企画政策課：菅原課長、新井政策推進幹、川上主幹、横倉主査、高梨主事 商工観光課：近藤観光戦略推進幹、多田主幹 産業拠点推進室：柿沼室長 農政課：村田課長 子ども未来課：五十嵐課長、上野子ども未来推進幹 保健センター：岡田所長 学校教育課：荻原次長
会議内容	(1) 総合戦略の進捗状況について (2) 地方創生に係る交付金の活用状況について
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 会議設置要綱 ・ 委員名簿 ・ 資料1 行田市まち・ひと・しごと総合戦略 数値目標及びKPI一覧 ・ 資料2 行田市まち・ひと・しごと総合戦略の進捗及びKPI達成状況 ・ 資料3 行田市の人口動態等データ ・ 資料4 地方創生に係る交付金 実績報告
その他 必要事項	傍聴者 なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 あいさつ（石川座長）</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 議事</p>
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは議事に移らせていただく。議事については、設置要綱の規定に基づき、石川副市長に座長として進行をお願いする。
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・議事に入る前に、この会議の運営に関する取扱いについてご了承いただきたい点が2点あるので事務局より説明する。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・1点目として、本日の会議の議事の中では、個人情報を取扱う予定がないことから、会議は公開とさせていただきます。 ・2点目として、会議録については、要点筆記とし、協議会のホームページにおいて後日公開する。
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、議事の（1）「総合戦略の進捗状況」について、事務局より説明する。
事務局	<p>（1）総合戦略の進捗状況について（資料1・資料2・資料3により説明）</p>
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、次の総合戦略を策定するに当たり、まずは現行計画の進捗や検証状況を説明させていただいたが、これに対してご意見等はあるか。
細井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3掲載の行田市の人口動態について、社会減のマイナスをプラスへ反転させるため、社会減の原因とプラスに反転させるためのアイデアがあればお聴きしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本市では、転入出時時にアンケートを依頼しているが、転出の場合は就職や転職、進学といった理由が多く挙げられている。そのような現状からも、人口減少対策としては雇用の創出が重要と考える。現在、企業誘致のための奨励金を交付しているが、現状として、企業を誘致できる土地が不足していることから、県の企業局と新たな産業団地の整備を若小玉地区で実施している。これに終わらず、次なる産業団地の整備についても検討が必要と考えている。

細井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・我々の商工会議所でも就職・転職といった面でも協力させていただきたい。雇用の創出は人口減少対策において必要なものであるため、引続き市でも対応いただきたい。企業誘致における交通インフラの整備も必要であり、上尾道路の早期開通も必要である。
山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 移住・定住及びU・J・Iターンの促進のUターン創業等の支援による定住者数、行田市歴史探訪ツアー参加世帯数、従業員転入奨励金の利用者数が0人であったり、「事業を実施せず」となっているが、これについて説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・Uターン創業等の支援による定住者数及び従業員転入奨励金の利用者数については、市では様々な就業者支援を行っている中で、起業家支援事業以外の支援事業について実績が伸びていない状況である。こうした現状を踏まえると、今後、支援内容の見直しも必要であると考えている。行田市歴史探訪ツアーについては、平成29年に効率化の観点から市バスの廃止を行っており、本ツアーは市バスを活用し実施していたため、事業が実施できなくなったものである。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人子育てネット行田では、集いの広場、きつずプラザあおいを運営しており、保護者より「自然豊かな行田市で子育てをしたいから移住した」との意見を頂いた。こういった行田ならではの魅力を活かし、市全体で子育て環境の整備を行っていく必要があると考えている。
山本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市は、交通インフラが乏しいと考えている。特に、市街地の道の狭さや行田駅からの市内へのアクセスの悪さは課題ではないか。このような問題を解決するため協力していきたい。
細村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・富士見工業団地の拡張エリアは、下水道エリアとなるため、土地を購入する方にきちんと説明は必要だと考える。また、工業団地を新たに造成する場合、交通安全面などからも、郊外の広い土地へ誘致が必要である。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今は、市内にも外国人労働者や留学生が多く滞在している。そういった方々のために、各国の食事が食べられるようにしたら良いと考える。
為貝委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少対策としては、子育て世帯をどれだけ市内に転入させる

事務局	<p>かが重要であると考えている。幅広い子育て世帯に対して、行田市の立地や各種支援など、通勤や子育てがしやすい環境であることを発信していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考までにお聞きするが、行田に転入する人のうち、Uターンしてきた転入者はどれくらいいるのか。 ・近年は毎年度2,500人程度の転入者がいるが、奨励金の交付状況等を見る限り、転入者といっても行田が初めてという方は少なく、行田市内に在住している親世帯と近くに住みたいとの理由でUターンする者が多い状況である。
為貝委員	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先となる企業を市内に誘致することにより、人口流出の防止にも繋がるものとする。また、本市を訪れた外国人観光客への対応は現状どのようなものか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、わが国では外国人観光客が増加しているが、行田市単位では、外国人観光入込客数を把握できていない状況である。外国人観光客数を把握できる仕組みを整え、来年のオリンピック・パラリンピック、またその後においても、外国人をターゲットとした観光施策に取り組んでいきたい。
竹内委員	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県北部の市町はどこも、都心への通勤アクセスの関係などから、人口減少が課題となっている。その中で、企業誘致や地域資源の活用などにおいて、行田市としての魅力を発信していく必要があると考えている。
山本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会を迎え、運転免許証を返納しても生活しやすい街など、高齢者に優しい街としてアピールしても良いのではないかと考える。免許返納後の高齢者の足となるデマンドタクシーの利用状況は現状どの程度のものなのか。
事務局 細井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な数値が手元にないことから、後日回答させていただく。 ・行田市のGDPは約2,700億円だが、産業団地の誘致やインバウンド需要の拡大により少しでも向上させ、行田市がより豊かになればよいと考えている。
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・国においては、次期総合戦略においてSociety5.0やSDGsなどの新たな視点を取り入れようとしている。市としても新たなステージに進められるよう、頂いたご意見は参考とさせていただく。

石川座長	・ それでは、続いて、議事の（２）「総合戦略の進捗状況」について、事務局より説明する。
事務局	（２）地方創生に係る交付金の活用状況について（資料４により説明）
石川座長	・ ただいまの事務局の説明について、委員の皆様それぞれの立場からご意見を頂戴したい。
細井委員	・ どれも十分に検討された事業であり、引続き取組みを行って欲しい。
山本委員	・ 今後も、行田の特徴を活かした街の活性化について期待している。また、会議の場においてもそういった情報を共有できたらよいと考えている。
山崎委員	・ 洋装化に伴い、足袋の生産数は全盛期に比べ大きく減少しているが、東小での足袋の導入や足袋を履くことによる健康効果など、足袋の良いところをさらにアピールして、足袋のまち行田として発信していく必要があると考える。
竹内委員	・ 今年度、市と利根地域振興センターで県南部の方を中心とした行田市日帰りツアーを初めて実施させていただき、参加者からは好評であった。実際に訪れないと分からない魅力はあると思うので、このような取組みには今後も力を入れてほしい。
為貝委員	・ 足袋のまち行田プロジェクトにおいて、東小のみで足袋を使用しているとのことだが、市内全校において上履きの代わりに足袋を履くなど、足袋のまち行田をさらにアピールする取組みが必要ではないか。上履きに比べ高価ということであれば、補助金などを出しても良いと思う。また、様々な物産展やアンテナショップなども活用し、行田をさらにアピールしてほしい。
小林委員	・ 藍染は羽生市というイメージだが、行田市においても牧禎舎などの体験施設があるので、それと足袋を組み合わせてもよいのではないか。
細村委員	・ 工業団地内の工場に県外からお客様がきたとき、市内の観光地を案内しようとするが、それぞれが点在している現状である。行田を網羅できるような観光施設があればより良いと感じている。
山本委員	・ 南河原商工会では本年より東京ビッグサイトで行われるギフト展

<p>石川座長</p> <p>司 会</p>	<p>でスリッパなどを出展している。市においても歴史ある足袋を展示会などでPRしていただき、日本全国や世界へ魅力を発信していくべきであると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頂いたご意見は取りまとめ、国へ報告させていただく。 ・先日、行田市にいらしたトリップアドバイザーの方を案内する機会があったが、外部の方に案内することで、改めて行田がもつ地域資源の素晴らしさに気付くと同時に、自分たちの誇るべき地域資源を、恥じることなく外へ発信すべきであると考えさせられた。これまで以上にPRを行い、その成果を計画へ反映できるよう取り組む必要がある。 ・他に意見がなければ、これにて座長の職を解かせていただく。 ・以上をもって、令和元年度第1回行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会とする。 <p style="text-align: center;">< 閉 会 ></p>
------------------------	--